

栗駒山の火山活動解説資料（令和2年9月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2）

大柳監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。展望岩頭監視カメラによる観測では、ゼッタ沢上流で弱い噴気が認められました。地熱域は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図3）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山周辺では、「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。

・地殻変動の状況（図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 栗駒山 山頂周辺の状況（9月30日）

・大柳監視カメラ（山頂の南東約20km）の映像です。

噴気は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和2年10月分）は令和2年11月10日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

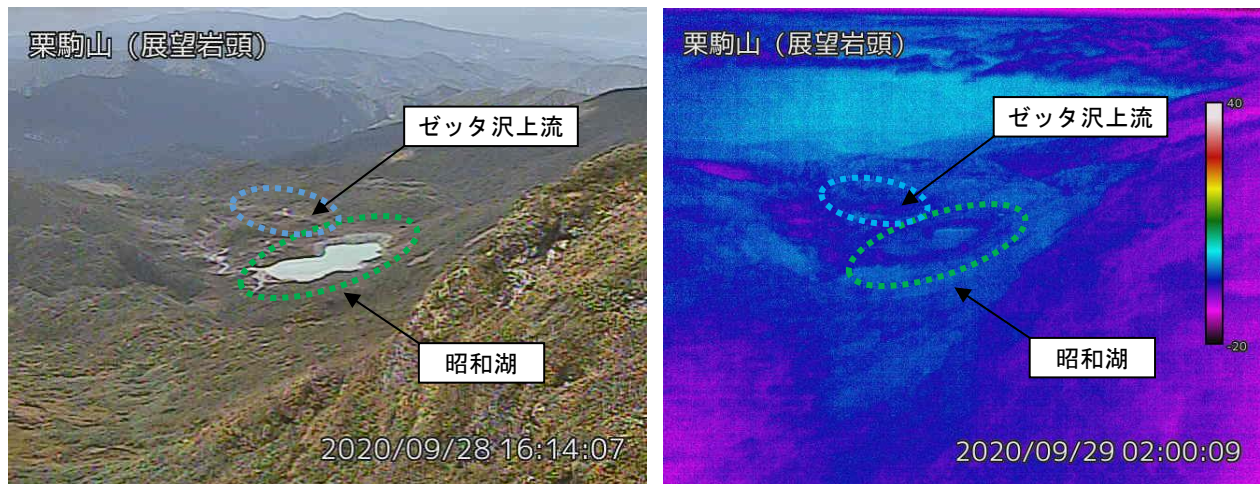


図2 栗駒山 昭和湖及びゼッタ沢上流周辺の状況（9月28日）と地表面温度分布（9月29日）
・展望岩頭監視カメラ（昭和湖の南南西約900m）の映像です。

ゼッタ沢上流で弱い噴気が認められました。地熱域は認められませんでした。

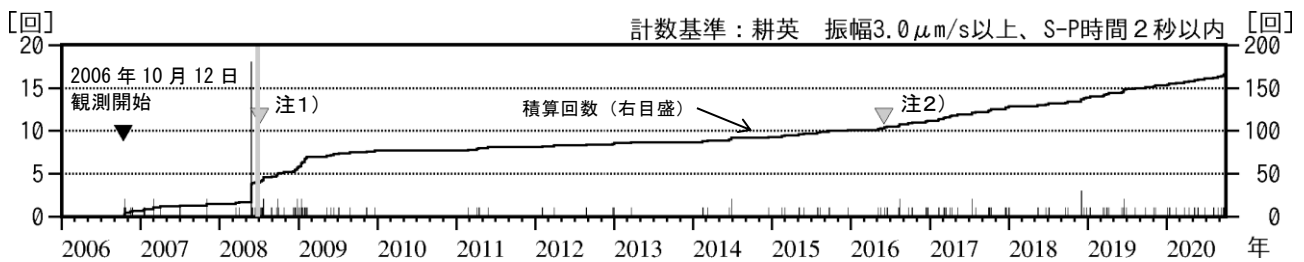


図3 栗駒山 日別地震回数（2006年10月～2020年9月）

・計数基準の変遷は次のとおりです。

観測開始 2006年10月12日 ～ 旧耕英観測点 振幅 $3.0\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2.0秒以内

注1) 2008年7月2日 ～ ^{おやす}小安観測点（2010年10月8日まで）及び広域地震観測網

注2) 2016年6月1日 ～ 耕英観測点 振幅 $3.0\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2.0秒以内

※2008年6月14日～7月2日18時（図の灰色部分）

「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の影響により観測不能

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山周辺では、「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。

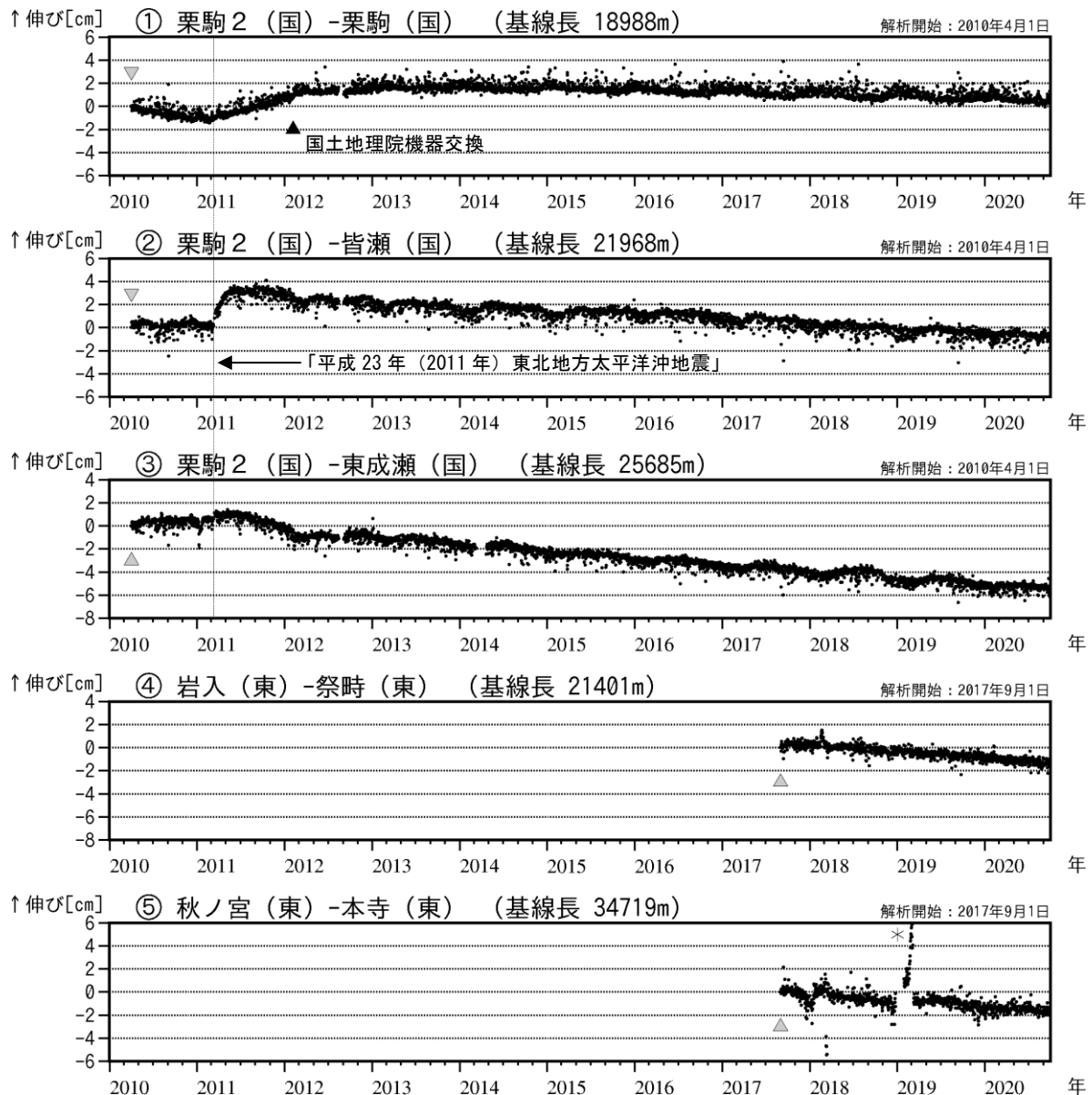


図4 栗駒山 GNSS 基線長変化図 (2010年4月～2020年9月)

- ・「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑤は図6のGNSS基線①～⑤に対応しています。
- ・(国)は国土地理院、(東)は東北大学の観測点を示します。
- ＊：秋ノ宮(東)観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。
- ▲▼：解析開始を示します。

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

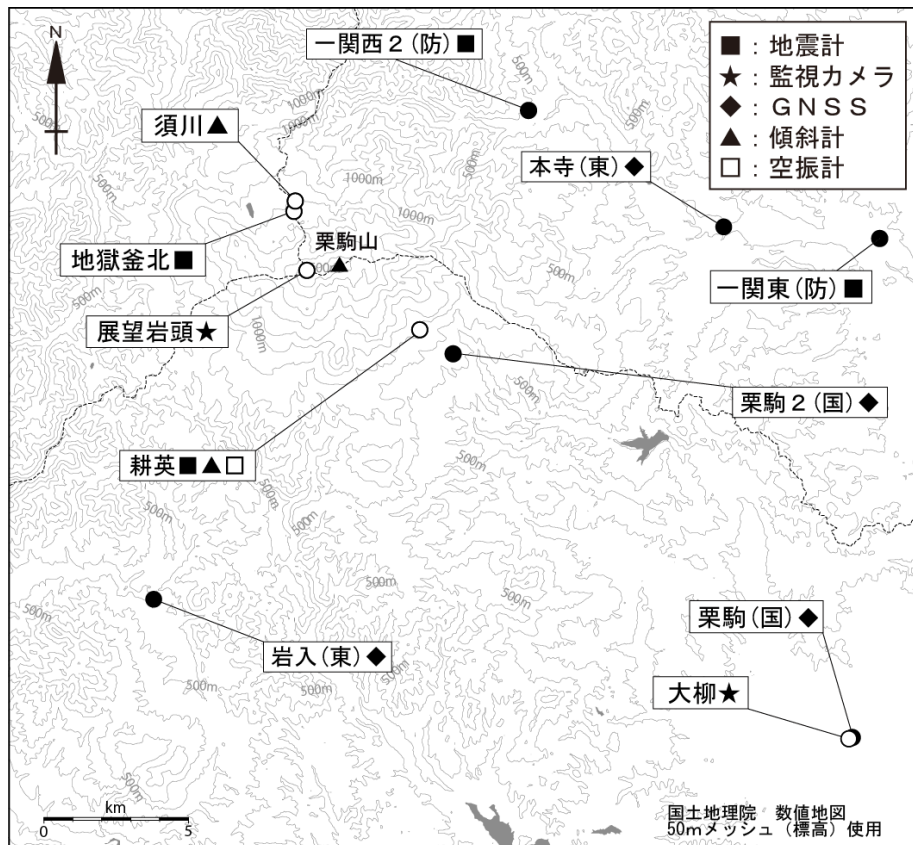


図5 栗駒山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

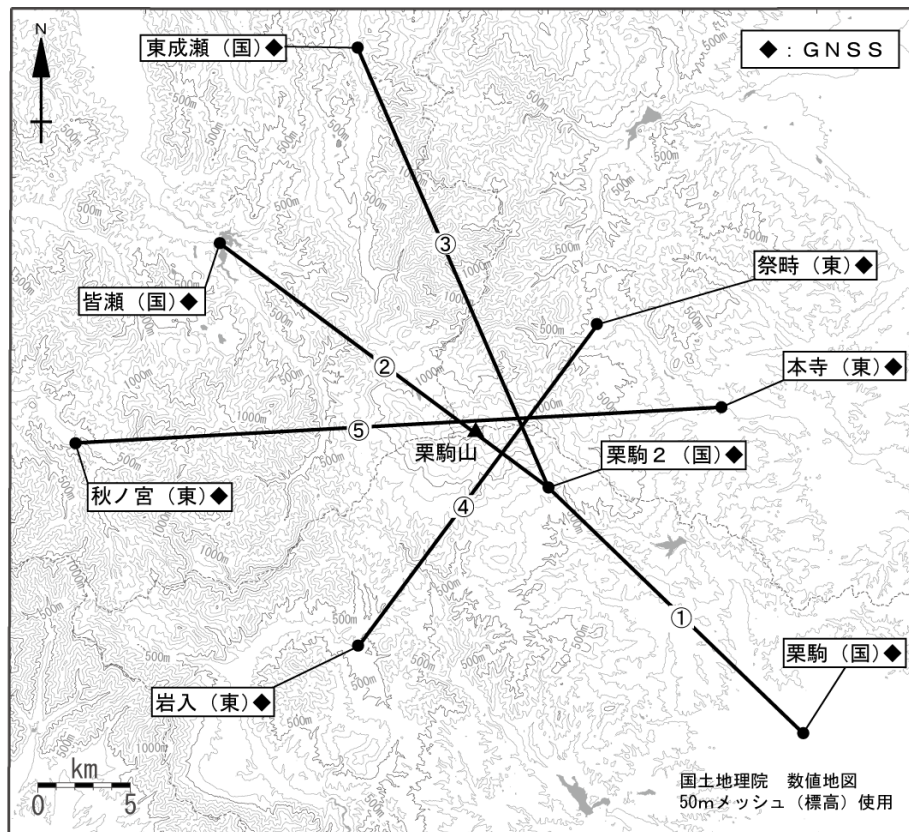


図6 栗駒山 GNSS 観測基線図

黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学